お話を伺いました

株式会社エマリコくにたち
代表取締役社長
菱沼 勇介さん

「東京の〝まちなか農業〟を未来につなぐ新鮮でおいしい仕組みをつくり、まちと農業を元気にしていくこと」を目指して、国立市内を中心に地元野菜を扱う直売所・飲食店計6店舗を展開（2023年10月時点）。ほかにスーパーへの東京野菜の卸売、直売所やアンテナショップへの助言・コンサルティングなども行う。2021年には地産地消優良事例として農水省食料産業局長賞を受賞。右の画像は直売所の第1号店「くにたち野菜しゅんかしゅんか」に、その日の朝集荷した野菜などが届けられる様子。

株式会社エマリコくにたち

自ら集荷し、農家の思いや背景も届ける 都市農業を支える流通の仕組み

日本の農業が抱える課題の一つに流通があります。野菜や果物などの農産物は、その多くが生産者から農協や出荷組合などに納品された後、卸売市場を経由して、スーパーや青果店などの店頭に届けられています。生産者から小売店への直接販売など、卸売市場を介さない流通経路も増えつつあるものの、2019（令和元）年度は国産青果の76・9％が卸売市場経由であり（※1）、人材不足や高騰する運送コストが生産者・流通業者・小売業者それぞれの負担となっています。また2024（令和6）年4月1日以降、働き方改革関連法案（※2）によりトラックドライバーの時間外労働時間に上限規制がかかることで、さらなる輸送力不足が見込まれ、農産物流通においても影響が懸念されています。

「集荷＆買取」で新たな流通スタイルを生み出す

中央線沿線を中心に地場野菜の直売所や飲食店を運営する株式会社エマリコくにたちでは、2011（平成23）年の創業当初より、近隣地域の農家を回って〝自ら集荷し、農産物を買い取る〟という「まちなか農業流通モデル」を生み出し、卸売市場を介さない流通のなかでも新しいスタイルを実践してきました。〝生産者が自ら直売所に納品して直売所が委託で販売する〟という従来の直売所のスタイルとは大きく異なるビジネスモデル。現在は立川・国立・国分寺・日野などを中心に160軒ほどの生産者ネットワークを有し、毎朝3台の集荷車で荷を集め、6か所の直売所へと配送しています。この流通が成り立つのは、多摩地域の土地柄によるところが大きいと、同社代表取締役社長の菱沼勇介さん。

「私たちが集荷している多摩地域の中央部あたりでは、旧甲州街道や五日市街道など、大きな街道沿いに農家が点在しています。そのため効率的に集荷できるルートを組みやすく、また少量多品目を栽培する農家が多いので、バラエティに富んだ商品を仕入れることができます」

さらに同社では、それぞれの地域の農業や生産者の思い、おいしい農作物を育てるための工夫などを、直売所を通して消費者に届ける「背景流通」を使命とし、消費者と生産者をつなぐ架け橋となっています。

当然のことながら、同社には集荷や発注のためのコストがかかります。それでも「生産者・小売店・消費者それぞれにメリットが多い」と菱沼さん。生産者の利点は、納品や陳列、売れ残り品の引き取りなどの負担がなくなり、農作業そのものに注力することができること。そして小売店である直売所の利点は、スタッフ自ら集荷に行くため毎日の畑の状況を把握しやすく、生産者やその家族ともコミュニケーションがとれる、買取での取引のため店頭の需要に合わせて発注できるなどがあると言います。

「当社の直売所はほとんどが駅構内や駅から徒歩5分など、利用しやすい場所に立地しているので、ご家庭の冷蔵庫代わりとして使ってほしい」と言う菱沼さん。その言葉通り、消費者は新鮮な地場野菜を日々の暮らしのなかで購入しやすく、同時に自分の暮らす地域の農業や農地のことを知るきっかけも得られます。

生産者と消費者をつなぐ取り組みとして、親子向け農体験イベント「農いく！」や、援農や農地見学、講座などで学び・経験が得られる「イートローカル探検隊」など、体験事業も運営する同社（共に下コラム参照）。今後は「消費者の声を生産者に届ける仕組みづくりをもっと頑張りたい」と菱沼さんは言います。まちなか農業流通モデルだからこそできる思いや背景の流通は、地産地消を促進し、関係性を育み、地域経済の循環を促します。これからの時代にフィットする物流のあり方は、ネットワークに支えられ相互に届けるものがある物流なのかもしれません。

※1：農林水産省「卸売市場をめぐる情勢について」令和4年8月　※2：自動車運転業務の時間外労働の上限が960時間に制限される

都市の畑に行って知る 農体験イベント 農いく！

農作物の収穫体験や連続講座を通じ、地域の農地や農作物と触れ合い、生産者とコミュニケーションできる親子向け農体験イベントです。10月は「立川・清水農園でサツマイモ収穫！」。詳細は「農いく！」のHPをご確認ください。

日 2023年10月29日（日）10：00～12：00　小雨決行 荒天中止
場 清水農園（立川市栄町2-32-4）
料 1家庭（大人1名＋子ども1名）3,500円（税込）
定 25組　申込締切 2023年10月25日（水） 定員に達し次第受付終了
申 問 https://nouiku-tokyo.com

おいしい部活動 イートローカル探検隊

援農（えんのう）作業（畑作業のお手伝い）や農地見学、講座、オフ会など、農に興味のある〝隊員〟がゆるくつながり合い、それぞれの活動に参加できる部活動のような取り組み。活動内容は、複数の農家でお手伝いを経験できる「援農」、飲食店や農家など地元の〝名人〟に会いに行き、試食や食べ比べなどの体験も可能な「見学」、食や農に関する知識を多様な形で学ぶ「ミニゼミナール」など。会費など詳細は「イートローカル探検隊」のHPをご確認ください。

主 株式会社エマリコくにたち、株式会社JR中央線コミュニティデザイン
申 問 https://e-tan.tokyo